

日本ではまだない。

そこで、その文献を研究のすすんでいるアメリカに求めた。

幸い、県立医科大学神経精神医学講座、星野仁彦氏が、エール大学に留学中であつたので、氏のご協力により、同大図書館資料から、トロント大学助教授、カート・フロイドらの試作した性的同一性尺度を入手し、それを訳出して、一部を日本の事情に合うよう変更して使用することができた。

なお、訳出に当たっても、上記星野仁彦氏にご協力をいただいたことを感謝する。

2. 性的同一性尺度訳出までの事情

今回の調査に用いた性的同一性尺度は、アメリカのトロント大学助教授カート・フロイド、同ロン・ランゲビン、同ベティ・スタイナー、それに心理学者ジョン・サターバーグらの「Extension of the Gender Identity Scale for Males」の中の「The gender identity items with clinical weights given in Pdventheses, Part A, part B, part C,」の part A を訳出したものである。

カート・フロイドらの研究は、彼らの属するトロント大学の諸施設、性的同一性診療施設などにおいて行われたものである。

特に part A だけを訳して用いた理由は、Part B, part C が、事情の違いもあって、性的表現に種々の問題があり、高校生には向かないと判断したためであり、そのために、彼らの研究と比較検討できないのは残念であるが、これもやむを得ないと考えている。

3. 性的同一性測定尺度 (Gender Identity Scale)

この尺度は、原文では(1)~(19) , になっているものを使いやすいように、意味を出来るだけそのままに、表現をやわらかくして高校生の事情に合うようにして(a)~(r)までにまとめている。

なお、今回入手出来たのは、男性用の尺度であつたので、訳出して作成したものも、当然、男性用の性的同一性尺度である。

次に、性的同一性尺度を示す。

Gender Identity scale

(該当する番号を○印でかこんで下さい)

- a) 6 - 12 歳の間、
- 1) 男の子と遊ぶのが好きだった
 - 2) 女の子と遊ぶのが好きだった
 - 3) 男女の区別なく遊んだ
 - 4) 他の子供とは遊ばなかった
 - 5) 覚えていない
- b) 6 - 12 歳の間、
- 1) 男の子の遊びやおもちゃが好きだった
(例えば、スポーツ、戦争ごっこ、プラモデル)
 - 2) 女の子の遊びやおもちゃが好きだった
(例えば、お人形、ままごと遊び、編み物)
 - 3) どちらも同じくらい好きだった
- c) 6-12 歳の間、普通お母さんがやる事(洗濯、掃除、炊事など)を手伝うのが好きでしたか。
- 1) はい
 - 2) いいえ
 - 3) 覚えていない
- d) 13-16 歳の間、普通お母さんがやる事(洗濯、掃除、炊事など)を手伝うのが好きでしたか。
- 1) はい
 - 2) いいえ
 - 3) 覚えていない
- e) 6 - 12 歳の間、本や雑誌で物語を読むとき、
- 1) 男の主人公(例えば探偵、刑事、英雄、探検家、兵士など)になったように想像して読んだ
 - 2) 女の主人公(例えば、救い出される少女など)になったように想像して読んだ